様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ５ 月 ２４ 日現在

機関番号：１１３０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2016～2018
課題番号：１６Ｋ０９０４７

研究課題名（和文）東日本大震災後の夫婦における生活習慣と疾患の共有度および健康影響の同定

研究課題名（英文）Spousal concordance for lifestyle and lifestyle-related diseases after the great eastern Japan earthquake

研究代表者
土屋　菜歩（Tsuchiya, Naho）

東北大学・東北メディカル・メガバンク機構・講師

研究者番号：８０３９６５８０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は「東日本大震災後の夫婦は、生活習慣および疾患を共有しているか」を検証することである。本研究では東北メディカル・メガバンク事業地域住民コホート調査のデータを用いた。
　調査参加者約50,000名の情報からデータベースを構築し、5,758組の夫婦を同定して解析を行った。夫婦の平均年齢（標準偏差）は夫で63.2(10.5)歳、妻で60.4(10.2)歳であった。塩分摂取に関する食習慣を夫婦で共有しており、年齢階級により食習慣の一致度が異なっていることが明らかになった。配偶者が生活習慣病を持たない場合に対し、配偶者がそれらを有すると疾患を有するリスクは有意に高いことが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究では、5,758組という十分なサンプルサイズで夫婦間の生活習慣および疾患の共有度を検討することができた。先行研究で報告されてきた喫煙や飲酒に加え、塩分摂取において夫婦間で有意な相関を認め、かつ夫婦の年齢によってその相関の程度が異なることが示された。また、配偶者が生活習慣病を持たない場合に比較し、有する場合に本人もそれらを有するリスクが有意に高かった。夫婦単位での生活習慣病生活習慣の改善及び疾患の予防介入が有効である可能性が示唆された。

研究成果の概要（英文）：The present study aimed to examine spousal concordance for lifestyle and lifestyle-related diseases among couples in Miyagi prefecture after the Great Eastern Japan Earthquake in 2011.
We used the baseline data of the Tohoku Medical Megabank Organization Community-based Cohort Study. 5,758 spousal pairs aged 20 years old or above were identified from around 50,000 participants of the cohort. Mean age(SD) was 63.2(10.5) among husbands and 60.4(10.2) among wives, respectively. In terms of lifestyles, salt intake was significantly correlated among spouses and degree of correlation was different according to the age group. Individuals whose spouse had lifestyle-related diseases (hypertension, diabetes and metabolic syndrome) were more likely to have lifestyle-related diseases.

研究分野：疫学

キーワード：配偶者　生活習慣病　共有度

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９、ＣＫ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

夫婦は集団としての最小単位であり、地域住民の健康増進を考える際に重要な要素である。夫婦は喫煙、飲酒、運動などの生活習慣およびそこに起因する生活習慣病を共有しやすく、夫婦どちらかの生活習慣が配偶者の生活習慣にも影響を与える可能性があることが報告されている（Cobb ら（2014,2015）、Grant ら（2007）、Castelnuovo ら（2009））。夫婦どちらかの喫煙、飲酒等の生活習慣が、配偶者の生活習慣病やがんなどの発症リスクに影響を与えるという報告や（Leon ら（2014）、Sexton ら（1987））、配偶者で精神疾患を共有しやすいという報告もある（Butterworth ら（2006））。東日本大震災から 4 年半が経過し、中～長期的な健康影響が懸念されているが、本邦における同様の先行研究は限られており、自然災害を経験した夫婦間の生活習慣の共有度および相互作用、健康影響に関する先行研究は知る限り無い。

２．研究の目的

本研究の目的は「東日本大震災後の夫婦は、生活習慣および疾患を共有しているか」を検証することである。

３．研究の方法

本研究では東北メディカル・メガバンク事業地域住民コホート調査のデータを用いた。東北大学メディカル・メガバンク機構では、平成 25 年から、宮城県に住民票のある 20 歳以上の地域住民を対象とした地域住民コホート調査を実施しており、これまで約 50,000 名がこの調査に参加している。この調査では、採血、採尿、調査票 2 冊(喫煙、飲酒、食事などの生活習慣、既往歴、被災程度、転居回数、抑うつ・不安・不眠などに関する質問）を実施している。

東北メディカル･メガバンク事業地域住民コホート調査の参加者約 50,000 名の情報から①住所②年齢③性別④現在の同居者の詳細（人数、続柄）を元に夫婦を同定した。同定した夫婦の生活習慣および既往歴等のデータを含むデータベースを構築した。

夫婦をマッチさせたデータベースで、生活習慣病に関連すると考えられる生活習慣(飲酒、喫煙)、生活習慣病を有する夫婦の割合を算出した。塩分摂取量について夫婦間での相関を検討した。さらに、配偶者が生活習慣病を持たない群を基準として配偶者が生活習慣病を持つ者が自身も生活習慣病を有するリスクを多重ロジスティック回帰分析により検討した。

４．研究成果

平成 28 年度は夫婦の同定とデータベース構築を実施した。本研究では、5,758 組の夫婦が同定された。平成 29 年度は喫煙、飲酒、食習慣などの生活習慣の夫婦間の一致度を検討した。平成 30 年度は夫婦間の生活習慣病（高血圧、糖尿病、メタボリック症候群）の共有度を検討した。

同定した夫婦の平均年齢（標準偏差）は夫で 63.2(10.5)歳、妻で 60.4(10.2)歳であった。先行研究で報告されてきた喫煙や飲酒に加え、塩分摂取において夫婦間で有意な相関を認め、かつ夫婦の年齢によってその相関の程度が異なることが示された。また、配偶者が生活習慣病を持たない場合に比較し、有する場合に本人もそれらを有するリスクが有意に高かった。本研究により、夫婦単位での生活習慣病生活習慣の改善及び疾患の予防介入が有効である可能性が示唆された。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計　０　件）

〔学会発表〕（計　２　件）

1. 土屋 菜歩 、橋本航、中谷 直樹、中村 智洋、平田 匠、成田 暁、小暮 真奈 、菅原準一、栗山進一、辻一郎、呉繁夫、寳澤 篤「夫婦間のメタボリック症候群及び構成因子の共有度：東北メディカル・メガバンク計画－地域住民コホート調査」、第 29 回日本疫学会学術総会、2019 年

2. 土屋菜歩、中谷直樹、中村智洋、成田　暁、小暮真奈、菊谷昌浩、菅原準一、栗山進一、辻　一郎、呉　繁夫、寳澤　篤「東日本大震災後の夫婦における生活習慣の共有度についての検討」、第 28 回日本疫学会学術総会、2018 年

〔図書〕（計　０　件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計　０　件）

○取得状況（計　０　件）

６．研究組織

(1)研究分担者
研究分担者氏名：中谷　直樹
ローマ字氏名：(NAKAYA,NAOKI)
所属研究機関名：東北大学
部局名：東北メディカル・メガバンク機構
職名：准教授
研究者番号（8 桁）：60422094

(2)研究協力者
研究協力者氏名：中谷　久美
ローマ字氏名：(NAKAYA,KUMI)

研究協力者氏名：濱口　豊太
ローマ字氏名：(HAMAGUCHI,TOYOHIRO)

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。